

研究機関：広島大学

研究課題名	黄色ブドウ球菌の細菌学的特徴が臨床へ与える影響の解析
研究責任者名	広島大学病院感染症科 教授 大毛宏喜
研究期間	2017年10月19日 ～ 2022年3月31日
対象者	2008年1月から2020年12月の間に、広島大学病院で診療を受けられ培養検査により黄色ブドウ球菌を認められた患者さん。
意義・目的	<p>黄色ブドウ球菌は、ヒトの常在菌ですが蜂窩織炎や膿瘍だけでなく、壊死性筋膜炎や感染性心内膜炎などの重症感染症の原因菌にもなります。黄色ブドウ球菌は遺伝子学的に分類されますが、その細菌学的な特徴が人体へ与える影響についてはまだ十分に分かっていません。</p> <p>そこで私たちは、診療の中で培養された黄色ブドウ球菌の遺伝子学的、細菌学的な特徴を解析し、それが臨床にどのような影響を与えているのかを明らかにするためこの研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は診療録(カルテ)情報を転記し、患者さんから培養された黄色ブドウ球菌に対して遺伝子学的、細菌学的解析を行います。</p> <p>カルテから転記する内容は、年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服歴、血液検査、黄色ブドウ球菌の薬剤感受性、使用抗生剤、併用治療法です。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院感染症科 教授 大毛宏喜
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-1613 広島大学病院感染症科 教授 大毛宏喜</p>